

社会 その1 (4枚のうち)

つぎの文章をよく読み、あとの設問に答えなさい。

今日も日本や世界では、さまざまな出来事が起こっています。そしてこのような出来事について私たちは、多くの場合ニュースという形で知ることになります。ところで、皆さんはニュースをどんな手段によって手に入れていきますか。現在ではインターネットを通じてという答えが多いのかも知れませんが、少し前なら主にテレビを通じてというのが多かったのではないのでしょうか。では、テレビが普及する以前はどうだったのでしょうか。多くの人びとにニュースのような情報を伝える手段のことをマスメディアと言いますが、かつては新聞が代表的なマスメディアでした。日本の近代化とともに発展した新聞は、政治や社会、文化などの面で大きな役割を果たしてきました。今日は、日本における新聞の発展と現在について考えてみましょう。

日本で新聞が本格的に発行されるのは明治時代以降です。それでは、明治時代以前に新聞はなかったのでしょうか。江戸時代、大都市ではさまざまな種類の出版物が盛んに発行されていました。そうした出版物の中には、新聞に似たものもありました。それが瓦版です。瓦版の多くは単色刷りの一枚の紙でした。瓦版は、多くの人びとに読まれ、広く流通しました。

一方で、同じ頃のヨーロッパの国々には、すでに新聞が登場していました。欧米の新聞文化を知った幕府の役人の中には、新聞を発行したり、活用したりすることを主張した人びとがいました。新聞が世論を形成するはたらきに着目したのです。しかし、こうした意見は受け入れられませんでした。

日本で初めて新聞を発行したのは、あるイギリス人でした。彼は1861年に長崎で、ついで横浜で新聞を発行しました。日本人による新聞の発行も、その翌年、海外の新聞を日本語に翻訳するかたちで始まりました。やがて国内のさまざまな情報を掲載する新聞も登場し、外国人による日本語新聞も現れました。しかし外国人の目には、この時期に日本人が発行した新聞は「論説を書こうとはせず、真面目に事件をとりあげて解説しない」もので、ヨーロッパの新聞とは異なるものに映ったようです。外国人が発行する新聞から影響を受け、日本の新聞は社会や政治に関わるという役割を意識するようになっていきました。幕末から明治初期にかけての新聞をとりまく状況について、福地源一郎という人物が書き残した文章があります。福地は長崎出身で、彼と新聞との出会いは故郷の長崎で通訳見習いをしている時でした。

「……1862年に幕府の使節に従ってヨーロッパに行き、パリ滞在中、ホテルで新聞を読むと、使節のことが載っていて、われわれの行動、来訪目的、会談の内容が記事になっていました。どうやって新聞記者はわれわれのことを詳しく知ることができたのか、それだけでなく、昨日のことを今朝記事にできるのは何という速さなのか、驚いたものでした。…(略)…イギリス滞在中の1864年に、前年のイギリス艦隊による鹿児島攻撃が、イギリス議会で問題となり内閣が批判される記事を読み、あわせて記者が堂々と議論し遠慮なく意見を言うことにうらやましさを感じたのでした。…(略)…1866年に再び使節に従ってパリやロンドンに滞在した時、政治についての世論を左右するのは新聞の力だと聞き、私に文才があり機会があれば新聞記者になり時事を痛快に論じようと思い始めたのでした。……」

福地源一郎「新聞紙実歴」(1894年)より 文章を省略し現代の言葉に直しています。

さいしょ日本政府は、新聞の発行を許可制にしながらも、その発行を推奨していましたが、1874年頃から政府の新聞への対応が変化しました。1875年に新聞紙条例が定められ、新聞の発行方法や記事の内容などを制限しました。反対意見が強まったためにこの条例は1909年に廃止されますが、代わりに新聞紙法が定められたことで、政府の新聞に対する取り締まりはかえって強化されました。

政府は、人びとへの影響力を高めつつあった新聞を取り締まるだけではありませんでした。日清戦争を例にすると、政府は軍隊とともに行動する記者に戦地の様子を報道させただけでなく、福沢諭吉など戦争に賛成する人びとの意見を利用して、国民の戦意高揚を図りました。新聞社側も発行部数を増やすために、読者が喜ぶ戦場の「美談」を競って記事としました。そうした「美談」の中には、後に修身という科目の教科書に採用されたものもあります。

一方で、この頃から、社会問題を人びとに知らせるという記事も目立つようになりました。1894年に新聞社に入った横山源之助は、当時発達しつつあった工業において過酷な環境で働く工場労働者などの貧困に苦しむ人びとを取材して記事に書き、後にそれを『日本之下層社会』という書物にまとめました。社会問題の報道は現在でも新聞の重要な要素の1つですが、すでにこの頃には今の新聞につながる側面があったことがうかがえます。

大正時代に入り政党政治が発達すると、各政党は支持を集めるべく世論を意識したため、世論形成に影響を持つ新聞の役割はさらに大きくなりました。しかしだいに戦争の影が色濃くなってくると、新聞報道にもさまざまな規制が加えられました。新聞が報道の自由をうたえるようになったのは、第2次世界大戦後のことです。

1925年からはラジオ、そして1953年からはテレビ放送が始められ、どちらも受信機器の普及とともに発達しました。特にテレビの普及は戦後の高度経済成長と重なっており、だいに人びとが情報を手に入れる上での中心的手段になっていきました。こうしたテレビの発達によって、新聞はどうなったのでしょうか。実は、新聞も同じ時期に発行部数を順調に伸ばしていたのです。しかしこのような状況も、21世紀に入って変わってきました。インターネットの登場とその普及により、主にインターネットを通じて情報を得る人の割合がだいに大きくなっているのです。今では新聞はかつてほど重要な存在ではなくなったと言われることもありますが、本当にそうでしょうか。今回ここまで考えてみたことをふまえつつ、新聞の価値についてさらに追究していくことも重要だと思います。

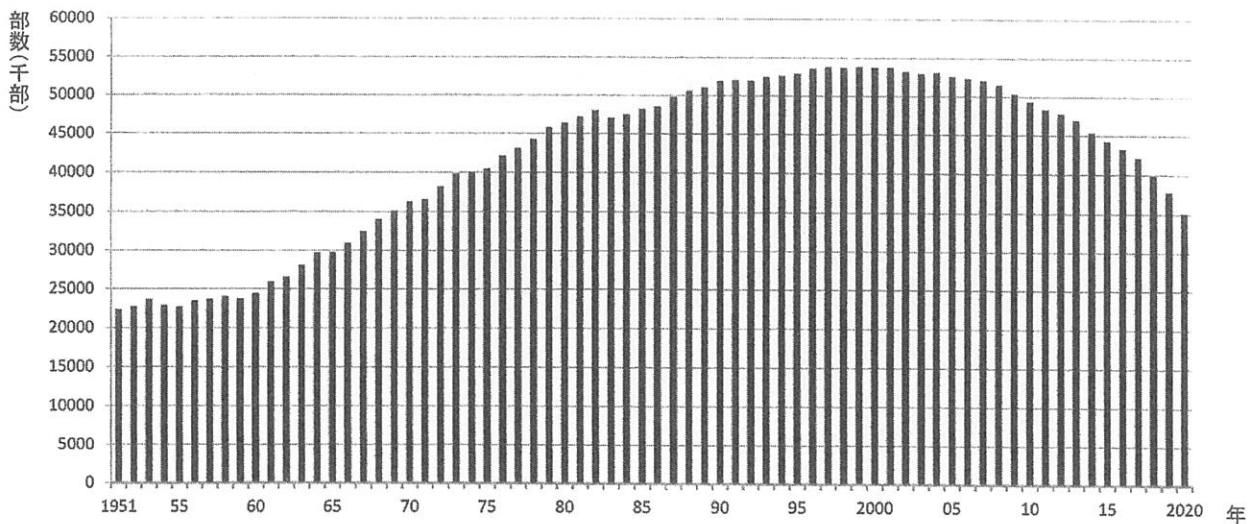
社会 その2 (4枚のうち)

参考図 浅間山の大噴火 (1783年) について報じた瓦版



内田啓一『江戸の出版事情』より

資料 日本における新聞の発行部数の推移 (1951年～2020年)



日本新聞協会『日本新聞年鑑』より作成

21	受験番号
中	

社会 その3 (4枚のうち)

問1 一般的に瓦版の内容は、自然災害や火事、うわさ話などに限られる一方、ある種の事からについては書かれませんでした。書かれなかった事からの種類とその理由を、推測して説明しなさい。

種類

理由

問2 江戸幕府は、「風説書」と呼ばれる海外事情について書かれた文書を、当時交流していた国ぐにから受け取っていました。その国は、どこどこですか。

問3 福地源一郎が考えた、ヨーロッパの新聞の優れている点について説明しなさい。

問4 以下の問いに答えなさい。

(あ) 1874年に始まったとされる重要な政治的運動は何ですか。

(い) この運動で目指されていたものは何ですか。下の中から適当なものを2つ選び、記号を書きなさい。

ア. 議会の開設 イ. 憲法の改正 ウ. 言論の自由 エ. アメリカとの戦争

21

受験番号

中

社会 その4 (4枚のうち)

問5 第2次世界大戦中の新聞の報道にはどのような規制がありましたか。知っていることを書きなさい。

--

問6 資料のグラフを見て、以下の問いに答えなさい。

(あ) 戦後、新聞の発行部数が増加していった理由として考えられることを書きなさい。

--

(い) 21世紀に入り、新聞の発行部数が減少し続けている理由として考えられることを2つ以上書きなさい。

--

問7 情報をやり取りする手段が多様化した現代において、新聞にはどのような価値が見いだせると思いますか。新聞の特徴から考えて書きなさい。

--